

平成6年度『オホーツク大学文集トーロ』からの抜粋・編集

私はこのたび、郷土史の一端として、福山地区の入植当時の状況を調べてみました。福山は元々、幌内部落といい、幌内川付近を幌内といい、以北はチエトイといいました。大正の初期は、熱田農場というのがあり、後に相馬牧場というようになりました。また、太茶苗部落というのがあり、現在の門間さんの下に駅通があり（石橋伝蔵氏）、洪水のため、日吉（当時は手師学）、今の花木センターの所へ移転しました。元駅通から豊川の可児さんまでを石橋山道と呼ばれていました。ここから日吉の手師学川（注：現在の日吉川）までを太茶苗部落といい、多くの農家があり、岡崎重吉氏の常呂最初の水田開発者として栄福橋の手前の旧道との分岐点あたりに大きな木柱の記念碑が立っていました。

小学校は現在の国分さんの畑の旧道そばあたりであり、生徒数は60名を超えるほどでしたが、たび重なる洪水と冷害に耐えられず、転出者が多く、大正14年12月、ついに廃校となり、部落も学校生徒も二分され、奥泉（注：太茶苗27号「イワケシユ郷土史」）さんから下の方は幌内に編入され、太幌といいましたが、現在は福山となりました。奥泉さん宅以南と日吉、川向かい、当時の手師学川向かいは日吉に入りました。（略）

注：熱田牧場 明治41年、茨城県人熱田常吉が未開地35戸分、面積180町歩の貸付許可を受けて農場開設。大正8年の大水害で全滅。大正11年に相馬合名会社に移った（「常呂町史」）

注：駅通 明治33年、石橋伝蔵が貸付許可を得て、放牧業と農業を営み、現在の22号付近に居を構え、官設駅通許可を受けた（「常呂町史」）

注：チエトイ 『常呂町のアイヌ語地名』では「福山の伊藤の沢を指す」

『常呂町百年史』では、「現名伊藤の沢川」

注：水田 大正10年、岡崎重吉、順調に造田耕作が進み、自家用米生産と販売用生産に精進、作況良好、住民挙げて豊作を祝い、道道24号線に「水田開発記念碑」建立。学童も参加し、紅白の餅を配り、青年も祝祭に参加（大正8年から末期の太茶苗部落の状況）

注：小学校 明治38年4月15日 太茶苗教授場として開校

明治42年4月 校舎を改築し、太茶苗教育所と改称

大正2年4月 太茶苗尋常小学校と改称

大正4年4月 幌内教授場開校

大正15年3月1日 太茶苗尋常小学校と幌内教授場を合併して太幌尋常小学

校として創立、現在地に設置

注：日吉・福山 昭和16年4月の字名・地番変更により地名を「日吉・福山」に変更